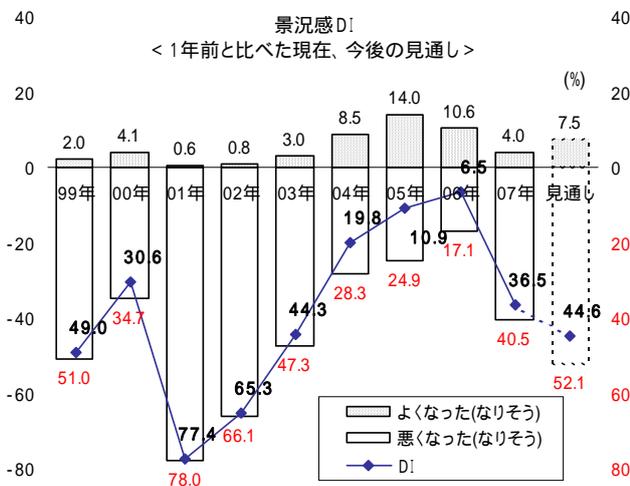


## 1. 景気・収入・支出・暮らし向きの動向

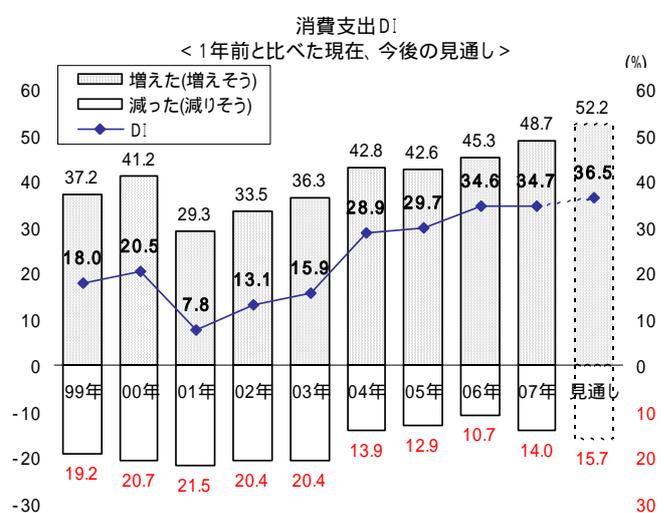
### [ 景況感DI ] 改善傾向から反転

- ・景況感DI (1年前に比べ景気が「よくなった」という回答の割合から「悪くなった」という回答の割合を引いた数値)は、前回(06年調査)より30ポイント低下した。
- ・昨年まで5年連続してマイナス幅は縮小傾向にあったが、6年ぶりに拡大した。
- ・今後の見通しでは、さらに8.1ポイント低下し、DIは44.6となった。



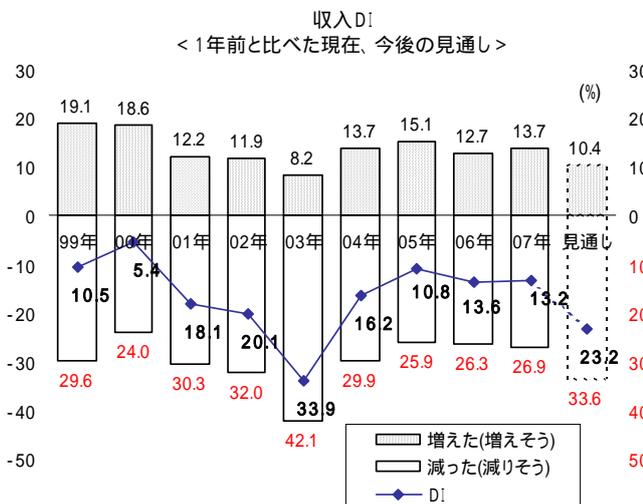
### [ 消費支出DI ] 6年連続上昇

- ・消費支出DIは、前回は0.1ポイント下回る34.7となった。原油など様々な物の値段が上がる一方で、不要不急のものは買わないなど生活防衛色も強まっているようだ。
- ・今後の見通しでは、DIは1.8ポイント上がって36.5となった。DIの上昇は資源価格の高騰による望まざる支出の増加を反映したものと見えそうだ。



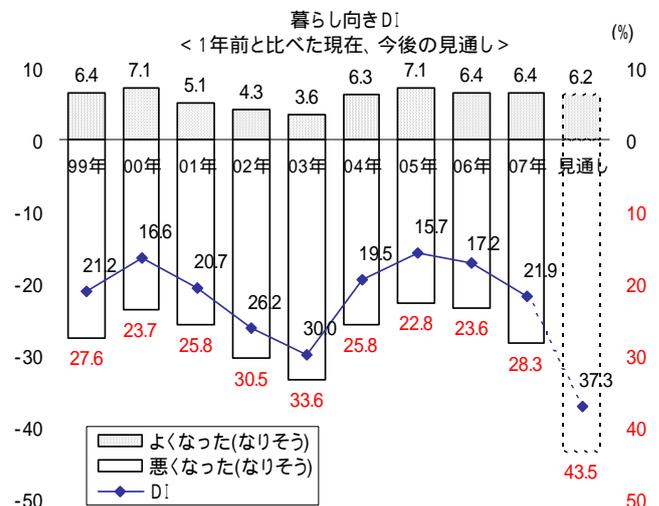
### [ 収入DI ] 改善は一時的、見通しは暗い

- ・収入DIは、13.2とわずかながら改善したが、今後の見通しは23.2とさらに悪化するとみられる。



### [ 暮らし向きDI ] さらに悪化を懸念

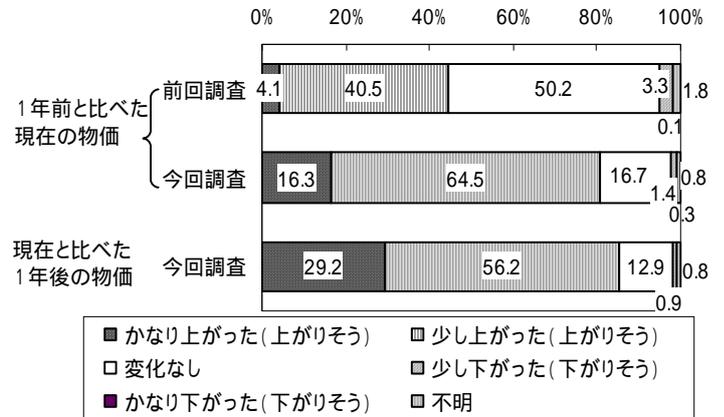
- ・暮らし向きDIは、21.9で前回より4.7ポイント悪化したが、今後の見通しは37.3とさらに落ち込むとみられる。



[物価] 上昇を実感

- ・ 1年前と比べ物価が「(かなり、または少し)上がった」と感じている人は 80.8%に上がった。
- ・ 1年後の物価は現在より「かなり上がりそう」とみている人の割合は 29.2%で、「少し上がりそう」を合わせると全体の 85.4%が、物価はさらに上昇すると考えている。

物価の騰落

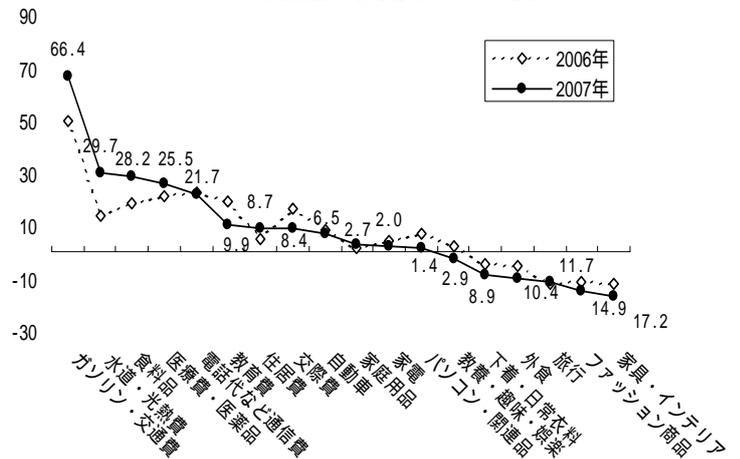


2. 費目別の支出動向

ガソリン代、光熱費が増加

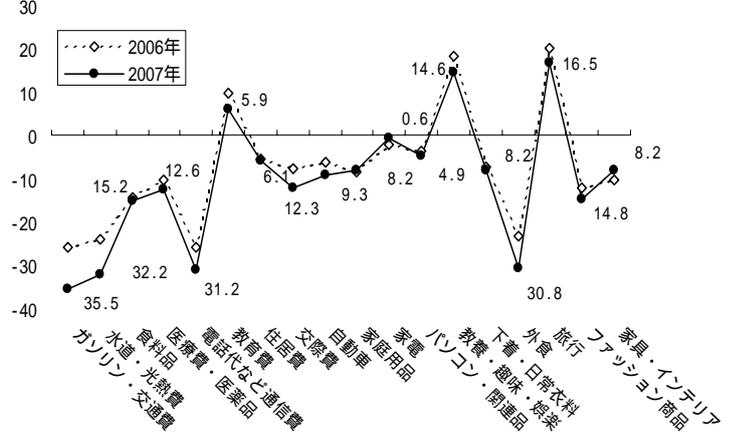
- ・ D I 値が最も高かった費目は、原油価格高騰を背景とするガソリン・交通費の 66.4 で、前回調査より 17.3 ポイント上昇。水道・光熱費 (29.7)、食料品 (28.2) がこれに次いだ。
- ・ D I がマイナスとなったのは、家具・インテリア、ファッション商品、旅行、外食といった支出を切り詰めやすい、いわば選択的消費にかかわる費目を中心であった。
- ・ 収入が伸びない中で、値上がりによる望まざる消費支出の増加により、これらの費目を切り詰めているものと推測される。

この1年間で支出が増えたもの・減ったもの



「この1年間で支出が増えたもの」の割合から「減ったもの」の割合を引いた値

今後支出を増やそうと思うもの・減らそうと思うもの



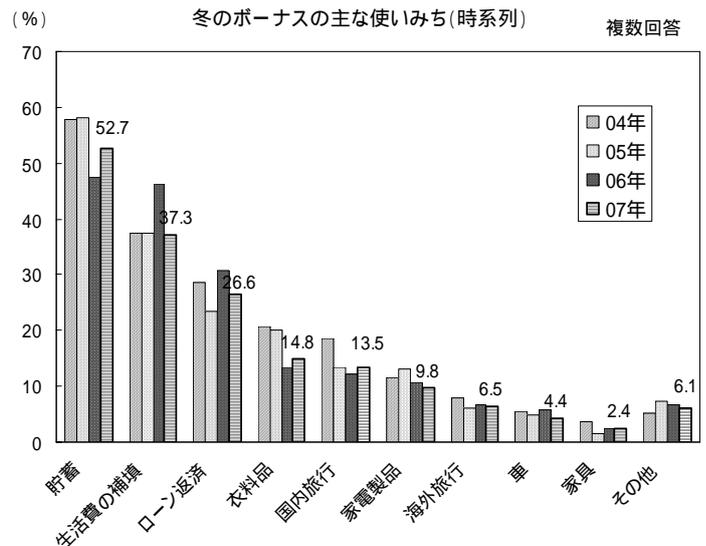
「今後支出を増やそうと思うもの」の割合から「減らそうと思うもの」の割合を引いた値

- ・ 今後については、旅行、教養・趣味・娯楽、教育費の 3 費目では、「増やそうと思う」が「減らそうと思う」を上回っているが、それ以外の 15 費目はマイナスとなった。
- ・ 家電、家庭用品、家具・インテリア以外の費目は全て D I の値が前回より低下しており、消費支出はますます抑制傾向が強まりそうだ。

### 3. ボーナスの使いみち

貯蓄が増加

- ・冬のボーナスの使いみちは、「貯蓄」が最も多く、その割合は前回より増加した。
- ・一方、「生活費の補填」や「ローンの返済」という回答は減少した。
- ・年代別では、30歳未満では「国内旅行」「海外旅行」が他の年代を大きく上回ったほか、「衣料品」や「車」の割合も他の年代より高かった。その一方で、「貯蓄」も他の年代より高く、堅実な一面もみせた。



### 4. 金融資産額

高齢者層はしっかり貯蓄

- ・現在の金融資産額を尋ねたところ、「1,000万円以上」との回答は、05年調査より6.7ポイント増加し、25.0%となった。
- ・一方で、「なし」という回答も0.7ポイント増加しており、二極化の傾向が見て取れる。
- ・年代別の金融資産額をみると、30歳未満の若年層では0～100万円未満が46.7%と約半分を占めた。
- ・一方で、50歳以上では1,000万円以上の割合が42.7%（60歳以上では半数以上）となった。

